



常務執行役員

宮田 繁二郎
Shigejiro Miyata

神川工場の開設にあたって

21世紀は環境の世紀です。

21世紀もすでに10年が過ぎようとしている今、世界規模でこの環境に関するパラダイムの変革が始まろうとしています。化石燃料から代替エネルギーへのシフトは今後ますます加速していくことでしょう。エネルギー媒体として、電気はクリーンで扱いやすく、電気を使った動力発生源として我々が製造しているモータは、その活躍の場をさらに広く求められる時代がやってきたわけです。

当社においては、1955年に国産第一号のサーボモータを開発し、その後も半世紀以上の間、「業界No.1のモータ」を目指し、さまざまな製品を開発し、製造してまいりました。生産の主力工場は長野県上田市の緑が丘工場でしたが、1944年に操業を開始してから、すでに60年以上も経過し老朽化が進んでいました。しかし、緑が丘工場の周囲は住宅地となっていたため、工場の拡張ができず、生産機種の大規模な拡大とともに、同市内の築地工場、青木工場と距離的に離れた3つの工場での生産体制を取らざるを得ず、その結果さまざまなムダが発生し、その解決が長年の課題となっていました。

このたび、3つの工場を統合した神川工場を開設いたしました。神川工場建設にあたっては、2007年2月より新工場建設委員会を発足し、工場統合に向け検討を進めてまいりました。モータの一貫生産ラインを構築し「業界No.1のモータ工場」を目指し、以下のコンセプトを基に工場建設の計画を仕上げました。

- 省エネと環境対策に優れた工場
- 豪華でなく、心地よさのある工場
- シンプルでスムーズなものの流れを目指す
- 生産現場と管理者の距離と人の動きを工夫する
- 工場内セキュリティを確保する

とりわけ、地球環境を保全するためのモノづくりの現場では、

- 工場で使用する電力のムダの削減
- 外部からの熱負荷の低減により、効率のよい快適な空間をつくる
- 自然光をふんだんに取り入れた作業環境の向上(ライトコート)
- クリーンエネルギーシステム(太陽光発電システム)の導入
- オイルミストを回収することで、空調負荷を低減する
- 雨水利用による、水資源の有効活用

などを具体的な建設計画に取り入れることにより、これからの工場のあるべき姿を実現させました。

工場間の物流や移動によるムダについては、緑が丘工場・青木工場・築地工場の機能を統合することにより、飛躍的に改善されることが予想されましたが、さらに新工場における合理性の高い生産システム、ライン、空間を創出するため、2008年1月より「高収益モノづくりプロジェクト」を発足し、工場レイアウトや設備、製造手法に至るまで、徹底的な現場でのムダ取りを実践しています。

本誌においては、神川工場の開設にあたって、工場建設やモノづくりに生きる技術とその取り組みについて、特集としてまとめられています。

神川工場は、2009年3月に竣工し、5月より全面操業を開始しました。「業界No.1のモータ工場」として、この神川工場で生産されるモータが地球環境に貢献することを確信いたします。

我々の長年の夢を100%満たすことができた神川工場の建設に関わっていただいた多くの皆様に深く感謝申し上げます。